



鹿 児島県出身の福島さんが北海道に来たのは19歳の頃。自然環境や動植物のことを学ぶため、札幌の専門学校に通い、修了後は、主に野生動物の調査員として道南や道

東でヒグマやエゾシカに関わる仕事をしていました。12年前に洞爺(当時の洞爺村)に住み始め、鳥類の環境調査業の傍ら洞爺湖周辺をフィールドに、洞爺の自然をガイドする会社「洞爺ガイドセンター」の立ち上げに携わり、その後2010年までカヌーや中島散策などのガイドとして勤めました。2011年には、独立して「とうやBINOCOLO」を設立。鳥類を主とした「環境調査」と道内でのシーカヤックなどのアウトドアガイドの傍ら、鳥類やガイドの講師を行っていました。2015年から洞爺湖でのガイド活動を本格化し、クリアカヌーや冬季スノーラフティングなどを始めました。「目の前に湖がある、海も山も近くにある。それになんといつても開放感のある雰囲気がある」と洞爺(渡邊紀子)



地域おこし協力隊が 出会った素敵な人紹介

洞爺湖周辺の魅力をガイド

とうや BINOCOLO

代表 福島

豪さん

(曙)

湖地域の景観の素晴らしさを指摘し、「調査の仕事で道内のさまざまな場所を訪れているが、住むならやっぱり洞爺湖がいい」とその魅力にすっかり嵌っています。洞爺湖の更なる魅力を深める目的で、「クリアカヌー」という全体が透明な素材で作られたカヌーを購入。昨年の秋からクリアカヌーを使ったツアーを始めました。火山マイスターの資格を持つ福島さんは、資格取得の過程で、火山が作り出す地形にも興味を持つようになりました。「水中の地形までじっくり観察することができると、クリアカヌーの魅力の一つだ」と言います。「ガイドを通じて、参加者に、心に残る体験、また自然環境や動植物のことを考えるきっかけを残したい」と話す福島さん。「鳥類の観察会なども計画し、自然のことを語り合える仲間が増えていく環境づくりをしていきたい」と今後の展望を熱く語ります。今季のクリアカヌーツアーは、10月までです。

義援金のご協力 ありがとうございます。

熊 本地震災害の義援金については、各自治会などで実施した封筒募金をはじめ、公共施設での義援金箱の設置、役場窓口での直接受付による募集を7月31日で終了しました。ご協力ありがとうございました。お寄せいただいた義援金については、(社)熊本県共同募金会、熊本県及び日本赤十字社北海道支部で開設している各義援金口座を通じて、被災された方々へお届けいたしました。

義援金総額 3,742,442円(7月15日現在)

人口と世帯の動き 6月30日現在(先月比)

男	4,296人	(△ 2)
女	4,957人	(△ 4)
計	9,253人	(△ 6)
世帯	4,999世帯	(+ 3)

今月のワンショット



認知症の啓発キャンペーン「RUN 伴TOMO-PROW(ランとも)」で、ふる里の丘にゴールするランナーたち